

ゐのはな

千葉大学医学部同窓会報 第51号

編集兼発行者
千葉大学医学部
ゐのはな同窓会報編集部

千葉市亥鼻町313
千葉大学医学部記念講堂内

酷暑を衝いて総会開催

……閉会后中島屋会も……

本年度のゐのはな同窓会総会は去
る七月二十二日、医学部記念講堂
において開催された。

この総会は開催時期が酷暑のせ
るが、今年もまたあきら照りの統



一般方向学外とせよ――

会長挨拶 鈴木 五郎

本日、この総会を開くに当って
御多用中お集り下すって洵に有り
がとございます。総会に会員の
集まりがよくないということがよ
くいわれ、役員としては、いつも
気にかかるところでもあつて何か
と工夫を凝らすのであります。
それで名士の講演会を催したり
もしました。荒垣秀雄（自然保護
界情勢について）、猪熊益一郎（湘
米十五年闘家の随想）その他でし
たが、それで集まりが特によかつ
たというとはいえないようでは
ない。話を聞いた我々には大変有益
ではありましたが。
そこで私はふと思うのです。凡
そこうした総会というのは、概
して出席者の多くないのが常で、
千葉医学部同窓会でも、私共の国立
病院関係の学会の総会等でも、事
務総会というのは集まりのよくな

会員が相集つて、中島屋夫妻の健
康を祝する会を開催したからであ
つた。

今年は役員会、総会合同で開催
会長挨拶にはじまり、学長、医学
部長の学内近況報告、会務報告と
順調に進行し、昭和47年度決算、
昭和48年度予算案も異議なく承認
されて一応の議事を終了した。そ
こで、司会者から昭和五十年が本
学の創立二〇〇周年に当たること
が披露され、同窓会としての記念事
業を計画するならば、そろそろ準
備を……という提案がなされた。



東大決意を示したのだといわれて
おります。第二次大戦終末におい
て、米軍は一般方向を潰走する独
軍強硬におき、ソ連は一般方向へ
ルリンとして進撃した結果は、独
逸が二分されたことにつながると
思います。ニイチェは「偉大と
は方向を与えること」と道破し
た由であります。

わがゐのはな同窓会——今日の
立派な会則になるこの同窓の結成
には、ここに松村先生もおられま
すが、谷川久治、友永得郎、吉田
機関等々諸君の容易ならぬ努力が
あつたのであります。その結成に
当つては、一般方向学内であ
りました。あらゆる努力の結果は
所期の目的を達して安定状態に
入り、同窓会館が上り、また医学
部八十五周年記念事業には、力を
健闘を祈ります。

学 内 近 況

……相磯学長挨拶……

千葉大学は学部学生六、三〇〇人教職員二、三〇〇人をもつ全国屈指の総合大学に発展しています。が、未だ千葉大学とは千葉医科大学だと思われている方が少なくないのは、今更ながら伝統の力の強いことを思わせます。

伝統といえは大学や学部の格付けは、戦後大学を民主化するという掛軸にも拘らず、依然として厳然たるものがあります。千葉大のようない旧制大学と新制学部で構成されている大学では、この格付けが著るしく目立ち講義制でかまわっている医学部とまた学科目制の学部が残っている他学部とはその格差は、縮まるどころか、却って強まってゆくように思われます。このことは千葉大の運営にとって大きな問題の一つです。地方大学がそれぞれ独自の創意によって特徴ある大学になってゆくことが要請されるなら、七十五の国立大学が国の文教政策の運営のなかで画一化され、古い大学基盤のために旧新しいの学部もが伸びられない状況は、まことに残念に思いま

す。と申しますのは昭和五十年が丁度本学の創立以来一〇〇年に当たっているわけでありまして、創立八十五周年をむかえた際はここに出席の鈴木正夫名誉会長が大変ご苦労なさって八十五周年史を編集して下さいただけであります。それからすでに二〇幾年かの時間が経過したわけでありまして、昭和五十年が丁度創立一〇〇周年に当たるといわけでありまして、この二〇につきましては、記念行事等の計画にしても仲々世相のけしき今日でありますので、その時になってあれが良からう、これが良からうなどと簡単に決められるものではないと存じております。したがって、もし同窓会として何らかの記念事業をいたすならば、ぼつぼつそういう問題を考える必要があるのではなかつたかと云うことであります。そんなわけで二つのことを議題として採択していただきましてお集りの会員の皆さまにいろいろご意見を申し上げたいと思つたのであります。

この二つについて、会長から発言があり、「一〇〇周年記念事業のことも考えなくてはならないが、多数の意見を聞くという意味を含めて、東京で総会を開催する」という話があったが、この二つについて説明してほしい」との要請があり、再び井出常任理事から追加発言がなされた。

「実はこの同窓会総会を一度東京やってみてはどうかというところでありまして、これは前々から一部の先生方の間では何回となく話されてきたことではあります。が、たまたま六月二十四日の東京の総会の際まで、自然発生的にいいいまいしうか、そういう声が起

総会議事 (1)

つてきたわけでありまして、これは松本医学部長(副会長)もそんなご意見だったようでありまして、まあ誰いとうなく表現した方がよろしいかと思ひますが、そういう声が出てまいりましたので、私(井出常任理事)がその時嶋田東京ののはな会長にどうですかとお話申し上げたわけでございます。云い出しをみたいですが、本場のところは全くの自然発生的なものであつたわけでありまして、よくこの声を私が代弁したことには他にも理由があつたわけでありまして、今日はこの小会議室を埋めつくすだけの会員の集まりをいいたいて、大変うれしく感じています。が、またまた会員の総数を数えます時は淋しいものがあります。会長の挨拶の中に、内に向つての時代から、少しく閉めの時代を経て、いよいよ外に向つての時代ではないかとお話がありましたが、いざさかの同窓会発展を思ひつつ年々努力してきた総会が、毎年このような状態、学外の諸先輩から数々の批判を仰ぐような破目になっているわけ、淋しい総会がここ数年つづいてるわけでありまして、もともとその前はもともと淋しい総会ではあつたに記憶しておりますが、こういうことをいふ角度から検討した下地があつて、やはり地味利を考へるならば東京という場所でののはな同窓会総会を試みるのも一つの方法ではなかつたかと考へたわけでありまして、このことはやがてやってくるであろう一〇〇周年という時期の記念事業を大勢の賛同のもとに、大勢の参加のもとに計画するというところにもつながるものと考へ、来年度東京の総会を如何であつたかと私なりう

けつたわけでありまして、嶋田東京ののはな会長もその折、理事会幹事会に諮つてみたいと思つておりましたが、まだその後の日時経過も残つてございまして、から会長が「よし」とお引き受け下さるような段階にはいたつていないと思ひますが、一〇〇周年記念事業のことと東京ののはな同窓会総会開催のことを一併してお考えいただければ思つております。

この時、議長からの問題についての議題採択の可否について賛否を問われ、全員議題として採択することを可決した。そこで、議長からの指名があり、嶋田東京ののはな会長の追加発言が求められた。

嶋田東京ののはな会長「実はこの総会のための常任理事会におきまして、会員の出席をいかに多くするかというところについていろいろ案が出たわけでありまして、このたびの中島屋会なども一つの苦心のあらわれであります。

実は昭和五十年が一〇〇周年というところになりますとこれから三年というところになります。仮に何年か記念事業をするとしても二年間ぐらいの準備期間には必要だろうと思ひますが、何をするかについて多数の会員の出席している総会で決つて、多数の意見を反映した方がよいのではないかと考へております。そうなりますと多数の会員を集めるチャンスが必要になつてくるわけ、そのチャンスをつくるというところで来年度の総会を東京で開催するというところには私個人としては全く賛成であります。しかし開催地となります東京ののはな会として充分に考へねばならぬといふことを思ひましたので、一昨日緊急理事会(東京ののはな会)を開いてこのことを検討していただいたわけでありまして、結論を申し上げますと多くの方々は基本的には賛成であるといふこととあります。そういう方向で考へる姿勢として賛意を表するといふわけでありまして、これは全一〇〇周年がもうすぐ来るといふことを知らずに書いたわけでございます。今日のようなお話で何か記念事業をしようかと思ひます、是非一〇〇周年の記念事業の一つとして同窓会館新設のことを考へたいと思ひます。現在の同窓会館は全く古くなつてしまつたので、同窓会の方が徳田出来るような会館を建てたいと思ひつておられます。この時会場から多数の拍手が起り「そうだ」との声もかたつた。

花岡名誉会長(明44)「来年度の東京開催はいない、是非そうしたい」

市川理事(大元)「昔は何回も東京で総会をいたしました。」「会長「一〇〇周年の記念事業も東京総会を決めたらどうだろうか。」「それは来年度の東京総会については東京ののはな会の方で検討していただくとして、何か他にございせんか。」「里村評議員(昭41)「新病院建設に伴つてテニスコートが埋められたり、大学会館が破壊されるという話を聞いているが、この点についても少し自然環境を守るというのを考へていただけないだろうか。」「この問題に関しては福岡会員(昭19)からも関連した発言がござります。なお序で申しわけあ

今や外への発展を

松本医学部長挨拶

最近わが国の医師不足が強く云々
 挙げられてきたため、医療機関の増
 設が急務に行なわれるようになり
 それとともに関連教育病院や研修

れてゆく今日、この大学の緑はまことに貴重である旨の追加があった。これに対し、秋原常任理事から、学内でも教授会で環境整備ゆきたい。凡秋谷を残せという話

後日談……総会終了後、岐阜県界の児玉会員（昭5）からお手紙をいただき、ゐのはな会報の新発足

医科大學に昇格して以來、しばらくの間は同窓会が二つにわかれていた。それは旧専門學校組と新しい医科大學組である。前者は同じキャンパスで学んだという關係から、薬學専門部の卒業生をも含める。同團結を計るべきであるとの声が大きくなり、ようやく昭和十年代に千葉医科大學のはな同窓会の名のもとに結集することになり、今日の発展の基盤が完成したのである。

これまでの同窓会の歴史は、どちらかといえば学内に向つての活動が主となつていたといへる。

しかし、多数の医学者、研究者臨床医が育つに從つて、学内のみならず学外に向つての発展を考え幸いにして、新設の北里、杏林、

委員会を設けて園芸部等の専門家の意見をきいたり、実際に移植し得る樹木は何と何かなどと検討し、移植に要する費用や移植の時期などについても考慮しているという発言があり、つづいて松本学としてゆきたいと考えている。」

について大変激励のお言葉をいただいた。加えて一〇周年記念事業としての同窓会館建設に関して大いなる共感を寄せられ、記念事業推進の基金にしてほしいと多額の寄付をいただいた。編集委員

その当時学内においてはすべて
猪鼻金の名のもとに各地方
においてそれぞれ大きな勢力を
もち統括していた。しかし、新しい
大学の卒業生が年々とも増し、
千葉医科大学同窓会が使われて別
に運営されていた。これに対して
も次第に強まり、同窓会を中心

なければならぬのは当然のことである。このために対外活動委員会などを作り、各地の同窓会員とも連絡を密にして情報を交換し、重要なポストの獲得への努力が続けられた。これには学の内外を問

東洋、自治、秋田などの医学部ないし医科大学にも多数の若い医歯学者を送り出すことができ、新設予定の大学へもかなりの人材がほぼ決定しているのみならず、金沢大学医学部までも進出することがで

昭和四十六年三月から四十七年六月までの間になくなられ、またはなくなられていることがわかった。会員は左記の五十七名です。

・10) 山下説三(M・44卒・47・)

一同大變感激した旨を付記する。

木義信(T・11・46・7) 中島了介(同・46・12) 加藤静市(同・45・8) 照内大三郎(同・46・5) 石島福馨(T・12・47・1) 安藤

昭和47年度予算編成資料

が必要である。今こそ学外への発展に対して、
 が、それが必ずしも田舎には適
 か。

神田 要 (M・32卒・46・4) 高
梨繁之助 (M・33卒・45・9) 星
川 轍太郎 (M・34卒・46・8) 大
牟田 弘 (M・40卒・29・10) 田中

物故會員

櫻本公濟(同・不明) 織田貞(T・5卒・46・4) 畠田通(同・47・4) 小櫃幾三(T・6卒・46・12) 中島靜夫(T・7卒・46・6) 長峯弘人(T・8卒・46・3) 林憲(T・9卒・46・3) 仲田一信(同・46・10) 龜田璣(同・46・4) 佐野秋藏(同・47・1) 小木曾紀(同・47・3) 岡部虎丸(T・10・45・4) 三上慎藏(同・44・4) 藤野正路(同・47・3) 植

覺之(S・11・47・3) 中村孝久(S・15・47・3) 手廣正二(同・47・6) 山城郎(S・16・3・46・5) 熊谷中(S・18・46・9) 相川繁(S・20・46・11) 伊藤正三(同・47・3) 海保敬一(S・22・47・3) 岡部博(S・23・47・3) 佐藤功(同・46・8) 露木爽(專・24・47・1) 田窪泰昌(S・28・45・10) 贊田義十(S・32・46・10) 神谷定治(S・38・46・8)

総会議事
(2)

当展してゆくためにはもはやこの
支那地区には空地がないので、土
地造成をはからねばならないが、
この度の病院建設で余剰の土が出
るので、高い土地の凹みを埋めて
ゆきたい。凡秋谷を残せという話
があるので、目下検討してもらっ
ています。大学としては現在の環
境をそのまま完全に残すというこ
とはなく、残すべきものは残す
という方針で大衆の見地から計画
してゆきたいと考えている。」
以上で討議を終り、大家塚副会
長 一同大変感激した旨を付記する。

一時間半にわたる議事について、
それぞれの意見が交換され、何時
になく言やかな懇親会となったが
後日談……総会終了後岐阜県
の児玉会員（昭五）からお手紙を
いただいた、あのはな会報の新発定
について大変激励のお言葉をいた
だいた。加えて一〇周年記念事
業としての同窓会館建設に關して
大いなる共感を寄せられ、記念事
業推進の基金にしてほしいと多額
のご寄付をいただいた。編集委員

いる。なお、大学の改革については従来のゆき掛り、面子などがあつて、また各階各層の思惑がかたみあつて難しいことばかりであるが、本会議は批評家の集りであるから、案外すつきりしたものを造り上げられるかと思つてゐる。

〈随想〉
釣 り

福 山 右 門

もし誰かに趣味はときかれたら私は躊躇なく釣りと答える。それほど釣りが好きである。しかし好きと上手とは話しは別。よく好きこそもの上手なれと云う。たしかに好きでない上達望めはないしかし好きだから必ず上手とは限らない。これが下手の横好き、私がそのよい例である。

私達医学部では釣りの好きの仲間が集つて、釣友会をつくり釣りを楽しんでいる。その顔をみれば、本音にうまい人達は大抵鬼丸大将の頃から川や海で育ち、魚とりに夢中になって遊んだ経験の持ち主である。大人になってから始めた者の釣りは所詮下手の横好きのたぐいになりがち。

私は山国に育ち、また母が極度に殺生を嫌ったので子供の頃余り魚には縁がなかった。初めて釣りをしたのは敗戦直後三十三歳の頃である。吾々は太閤末期タイとヒルマの国境の山奥深く追ひ込まれ洞窟生活をしていたが、終戦と共に山を降り、ヒルマ、モールメンの近郊ゴム林に集結し、チークの葉で葺いた屋根、竹で竿で作った床で雨露をしのいだ。

当時一番困ったのは食糧、軍隊言葉なら給養である。所詮捕虜の身、あたり前の食糧は望めぬにしてもあまりひどい。英軍から貰うお米は五年も六年も経った防腐剤にやけた吉米、煮ても煮ても軟くす。

情慾もなく照りつける灼熱のうらな思ひもよめ。ぼんやりした太陽、寝るべき木陰一つたないノルマだけの魚獲がないと帰るにも帰れない。班員五十名で五百名分の蛋白をかかせねばならぬ。太陽の直射、地面水面からの輻射で頭の髪を焼けるように熱い。皮は剥がれ、亀裂がでるまで鱗のようた。たまりかねては濁流に飛び込み、あがってはまた陽に灼かれる。まるでテリ焼きである。そんな生活が約一年半続いた。とにかく私が経験した最初の釣りはこんなもので、面白いか楽しかなど云えるものではなかつた。

私が楽しい釣りの味をおぼえたのは終戦後帰国し、福島に赴任してからのことである。そこでも初めやる気はなかつたが、隣に居た釣りのキチの釣竿、ピック等一切をろえり引張るという強引なさといに釣られてしまし、やみつきになつて今も釣りが止められないでいる。

釣りのことを大空と云うが本人はそんなのんびりした心境ではない。無念無想どころか、頭のなかには釣りの事一杯である。釣りが何から何の研究のことも考えよう。

釣りのことを大空と云うが本人はそんなのんびりした心境ではない。無念無想どころか、頭のなかには釣りの事一杯である。釣りが何から何の研究のことも考えよう。

書 評

長谷川英夫 著

「ガダルカナル島戦
或る軍医の手記」

渡 辺 六 郎



知床の初夏

「月日は百代の過客にして、行きかう年もまた旅人なり。舟の上に生涯を浮べて……」これは芭蕉の『おくの細道』の書き出しである。還暦の今年北海道を旅行してみよう……

倍すべし。ジャワ島部分に簡略に書いてあるが後のガ島に比べる何と明る事か。さんざん時雨や今村將軍のエピソードは先頃静岡県指定医師会会報に投稿したが山田武士が惚れて感銘深いものがある。

「ガ島では人肉を食った、糧米を運ぶ兵が糧米を盗んだ、又之を襲つて強盗を働いた等の風説を信する事はガ島戦役者一般を冒瀆する者である。ガ島戦役軍医として真実を伝えたい。」又「戦争の本態を最もよく知っているのは戦争体験者であらう」と。

校正の不充分な点も一向に気にならぬだけの力がある内容である。(尚カバの画とカッターの作者は故児島善三郎團長の令息児島輝郎團伯で、長谷川、行木團伯及小生の友人である。)

発行所 育英図書
東京都千代田区有楽町一四
有楽ビル別館
〒一〇〇
電話二〇三二五八八

之は長谷川英夫君が熱心に苦しんで書かれた。最中にもメモを取りつづけた日記を元にしたものである。長谷川と小生は千葉大同級生である。ボートの仲間であり外科の仲間である。

彼は昭和十九年一月に伊豆松崎町の小生の開業している医院を訪

中島屋会の記

片倉 逸(昭11)

大正中期から昭和三十年代までを得て誠に盛会となり、宴会費などの長い期間、千葉の医学生に親しむの費用を支払ってはお二十万円に大きな徳を与えてくれた中島屋を越す記念品代を贈ることが出来た。以上会務報告を兼ね、発起人の高令を迎えた。この老夫妻の健になっていただいた、鈴木五郎会康を祝しながら一夜の宴を持とうと、相磯学長、松本医学部長はじめ諸先生、諸先輩と、当日御参加のことになり、七月二十二日の日曜会総会を機に中島屋会が開催された。出席者六十名、余儀ない出席者で記念品代を送ってくれた御礼申し上げます。



「ううか。地位もなく、金もなく、榮譽もなく、失礼ながら知識人でもないこの一市井の老夫妻が、この様に徳望があり、立派な諸先生方に親愛されるのは一体どういうことなのであろうか。大学入の下宿生として、また学生食堂を経営し、あるいは山中寮の管理を引受けて、一親同仁、難波の差別なく唯善意のみでみんなの面倒をみて来た夫妻である。」「オヤジ、オバサン」と親しみ、そのおほらかな心におぼれて、あるいは中島屋に住みつき、または食堂の常連となってどれだけの人が苦しい生活を切りぬけ、学業放棄から救われたことが。千葉の医学生に与えた人間の魅力が如何に大きかったか。人間形成に如何に大きな影響を与えたか。



中島さん御夫婦

小生も医局に入った頃一泊五十銭の万年当直で息をついたことがあった。朝は患者食の検査で間に合せ、昼は病院食堂、しかし二十銭のライスカレーでは足りず、夜は中島屋の厄介にならざるを得なかった。時には昼も夜も。学生時代からのこれらが積り積ってこれだけの借金があるか。今度の会の機会に愛蔵する野間一樹の「双魚」の画を贈ることが出来て何か胸のつかえが下りたような気がした。中島屋会について鈴木同窓会長も一文書いて下さる筈なので、奇

せられた手紙の中からもみんなの気持ちの代表と思われる耳鼻科の助教であった吉野止文先生(清水市在住)の手紙を記させていただきます。『御夫妻お揃いで長寿のお祝い何とも嬉しくお喜び申し上げまします。私も隠居の身となり、夫婦といふものは共白髪になつてはじめて夫婦といえるのだに気がしました。それでも老夫婦ながらみんな祝福されるのは嬉しいです。老醜といふいやな香のしない老夫婦だけが祝福されるにちがいありません。今まで生きてこれた長い間に、惜しみなく、乗から救われたことが。千葉の医学生に与えた人間の魅力が如何に大きかったか。人間形成に如何に大きな影響を与えたか。電話で知らせてくれたオヤジ六さんの声がはずんだ。縁の薄かった私ですがその気持ちに変わりはありません。こちらに来て二度ほどドライブで山中寮の前をのりまわりました。立札がありました。その時思ったことは中島屋のオヤジさん物資の賣出しに苦労したろうなといふことでした。長生きの有り難さをこれからも十分味わって下さい。それだけほんに欲ばつてもよいと思います。あなた夫婦のためばかりではありません。六さんをはじめ諸々の昔の恩恵共のためにもです。おしあわせ。』

いま・むかし

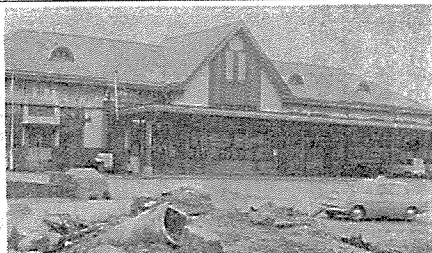
国鉄千葉駅



現千葉駅(昭和38年竣工)

今年鉄道一〇〇年とやらで、つい最近も記念行事が行なわれたばかりである。ところで千葉に鉄道が敷かれた

旧千葉駅



栄町通り



のは何時でこのところであつたか。明治二十七年、市川一佐高間が最初というから、かれこれ八十年前になるわけである。現在のよに

総武線と名付けられ千葉一松茶、昭和三十八年である。旧千葉駅との水間に電車が走るようになったのは昭和一〇年である。当時の国鉄千葉駅はすでに現在取り壊した千葉市の玄関としてはややくだるが、かつてが同窓の殆んど全員が、通学に、また行楽にこの駅を経由したものであつた。現在の千葉駅が完成されたのは、バスあり、タクシーありで自家用車のとめるべき所がない、全く不便である。ところが近く駅前の地下を掘り下げてタクシー発着所や自家用車駐車場を地下にする計画がなされているという。しばらく千葉を訪れたことのない同窓各位は現在でも東が西かわからず多少なりとも方向オチ的になつてしまつたら、またまた変つてしまつたら、本当にどろがとやら見当がつかなくなつてしまつてはなかつたか。駅前には銀行、百貨店など目おしにたちならんでいて、日曜などに行き交う人の数は全く数えきれない。

昭和三十年卒 五々会盛大に

ここ数年毎年開催されている五々会は、今年は沼津で開業中の整形外科の斯波君、産婦人科の望月君お二人のお世話で昭和四十七年六月十七日(土)の夕方から伊豆長岡温泉井川館で開かれた。集うもの計二十五名。そのなかには解剖の水野教授、東大医大の岩塚教授、北里大の教授に新任の決った加瀬君、精神科の小泉講師、泌尿器科の片山講師、一外の宮内

助手等の学究派、勤務医の諸兄、開業中の諸兄と多種多様な、各自が仲々愉快な自己紹介を行い、特に近々フランスへ遊学とかの西川君の歌はプロ顔負けの見事なものでした。来年は金沢病院を自らきりまわしている富田君、ニールの仇名で通っている小林君お二人のお世話で、ブルーライトの横浜で開かれる予定です。昭和三十年卒の諸兄の多数の御参加を今からお願いしておきます。鬼気笑われるかも知れませんが。(青木淳記)



同窓会



昭和三十三年卒 里帰りの友との 小宴

西ドイツ・ゲッテンゲン大学の高野光司(教授)が七月末に帰国して来た。日本で九月に開催予定の国際会議への出席と休暇を兼ねての里帰りという。早速、千葉周辺の同窓生で暑氣払いを兼ねて、一席設けてはということになり、八月十七日、元の蓮池、現「中央町」のすずめ寿司で小宴と相な

小宴

た。同窓はよきかなである。(上山慈太郎記)

高野は彼地の生理学教室に教授の席を得て二年、ようやく落着きを得たという感じ。一同、その白髪に、労苦を先づ思った。この高野を中心とする者十九名、同じ大学にいてもお互いに会う機会が少く、皆それぞれ、久々の対面である。卒業以来すでに十四年ではあるが、会えば、昔のままの顔がそこにある。注さるるまじ、皆ほとんど互に酔った。

整形の辻(助教授)は十度今日到着したという労作「腰椎間板障害」(金原出版)を披露する。三年來の宿望という。また、護国教諭養成所の武田(教授)も間もなく本を出版とのこと。

皆、自分のことのように喜び、高野の外で健闘に勇気づけられて、それぞれ街に散って行った。同窓はよきかなである。

(上山慈太郎記)

「四金会」と称する会のあることが一般方向学内という表現が存知の会員はあまり多くはないようである。政界の派閥集いに名づけられたものでもあるのかと思いきや、実はのはな同窓会と余りにも密着した会合の名称である。この会が何時、如何なる目的で誰によって提唱され、発足したものか、今日あまり明らかではない。「シキン」会と呼ぶ人あり「ヨシキン」会と称する人ありで呼称も一定していない。

総会の役割を果たしたようにも思える。時には学術講演を繰り込んでみたり、各教室の現況報告の場を企画されたりもした。しかし一貫してこの会がやってきたことは、わがのはな同窓会員にまつ

四金会の 励め

わる慶祝の行事(叙職、昇任、受賞等)の披露の宴の役割を果たしてきたことである。ここ数年來は原則的に隔月の第四金曜日を開催日として、細々ながらも途切れることなく続いている。現実には千葉、東京の会員の集りになりがちであるが、遠隔の方にも都合をつけて出てきていたがたいし、殊に若い会員諸君の出席を強く望むものである。このへんで「四金会」の正体を語り会って、この会が文字通り同窓親睦の推進の場になるようにしたいものである。次回開催は十月二十七日、次回は十一月二十六日新年会の予定である。(井手・昭四)

恩師・松村先生を囲んで

のはな同窓会員名簿によれば松村先生の教授在職年月は大正八年五月、昭和十八年十月の永年に亘り、本学にとっては正に人間国宝的存在であります。前号に現会長鈴木五郎先生が五月二十日に唯一人御健在の恩師松村先生を囲んで卒業五十年記念会を催したと報じている。私どもも九月二十三日に卒業五十年記念謝恩会をニユーパークホテルで催した。松村先生を始め河合先生、鈴木正夫先生、鈴木五郎先生、三輪先生の出席を聞き、三十年前を偲ぶにふさわしい会合であったが、その様子は次号に報告するとして今回は最長老松村先生の思い出を述べ、私どもが先生の教えを受けたのは先生が御在職の最後の頃で、先生は胸氣園の研究で名

(敦馬記)

第17回日本学術会議

心臓血管研究シンポジウム

日時：昭和47年11月18日(土)午後1時~5時

場所：千葉市・千葉港・千葉ニューパーク・ホテル

2階ホール

- | | | |
|-------------------------|----------|-------|
| 1. 脳局所循環動態の研究 | 千葉大教授 | 萩原弥四郎 |
| 2. 四肢の動脈血行障害について | | |
| | 東京大学教授 | 石川浩一 |
| 3. 肺塞栓・硬塞症 | 北海道大学教授 | 村尾本一誠 |
| 4. 肺性心と心性肺 | 慶応大学教授 | 笹本浩 |
| 5. 心臓外科の最近の動向と展望 | | |
| | 大阪大学教授 | 曲直部寿夫 |
| 6. 狭心症の診断、ことに、その心電図について | | |
| | 日本医科大学教授 | 木村栄一 |

主催：日本学術会議心臓血管研究連絡委員会
世話人：千葉大学教授 渡辺昌平

学内関係人事異動

▽3・31 山内昭雄(二解・助教) 授、辞職(岩手医大・教授、
工藤逸郎(歯口、助教) 授、辞職
(日大歯学部・助教) 授
▽4・1 村越康一(一内・助教) 授、昇任(教育学部、教授) 高
▽5・31 嶋田文之(耳鼻・講
野昇(産婦・助手) 授、昇任(同・
病院講師) 津金沢博雄(法医・講
師)、出向(警察庁)

47・3・31~47・10・1

第49回 千葉医学会学術大会 第18回 千葉県医師会学術大会 第11回 日医医学講座 連合大会予告

期日 昭和47年11月11日(土)午後2時30分

- 特別講演 サルコイドーシス研究の現況と展望
(中央鉄道病院) 千葉保之博士
- パネルディスカッション

小児の救急医療 司会 久保政次教授

- 血液型不適合の管理
- 意識障害(急性脳症)
- 呼吸困難
- 小児の気管および気管支異物
- 熱傷の処置
- 人工呼吸の実際

千葉県における救急医療需要の実態と問題点

海外たより オーストラリアより

▽7・1 清水文七(微生物・講
師)、出向(厚生省) 東条静夫(一
内・講師) 昇任(同・助教) 授
▽7・16 佐野基人(寄生・講
師)、昇任(同・助教) 石川時
宜(昇・助手) 昇任(同・講師)
▽8・16 上山登太郎(法医・講
師)、昇任(同・助教) 授

今回の私の留学につきお骨折り
いただきまして心から感謝申し上
げます。当地に着きまして二度目
の日曜日でありました。オーストラ
リア国立大学は連邦の首府キャン
ベラ市にあり、主として大学院大
学として出発したようです。六つ
にわかれていますが医学部(相当
する)がJohn Curtin Scho
ol of Medical Research

授、昇任(同・助教) 授
▽8・31 赤松鶴(二生化・助教
授) 金沢正昭(歯口・講師)、
昇任(同・助教) 川瀬健二(皮
膚・助手)、昇任(同・病院講師)
▽8・30 加藤正明(脳研・助教
授)、辞職(北里大・医学部・教
授)
▽7・1 清水文七(微生物・講
師)、出向(厚生省) 東条静夫(一
内・講師) 昇任(同・助教) 授
▽7・16 佐野基人(寄生・講
師)、昇任(同・助教) 石川時
宜(昇・助手) 昇任(同・講師)
▽8・16 上山登太郎(法医・講
師)、昇任(同・助教) 授

来年には神経生理学教室が独立す
る予定です。宿舎はすばらしい
University Houseがあり、ド
クターコースの学生以上が入れま
すが、私は有名なA. Albert教
授と同じフロアに住んでいま
す。
キャンベラ市は緑の湖あり、
空は青く鳥啼きといったきれいな
ところで幸福な研究生活をはしめ
ました。六ヶ月の間に何か把握し
て帰国したいと思っております。
御多忙な毎日、くれぐれも御自愛
下さいませようお祈り致します。
昭和四十七年七月十六日
石川稔生
(注) 薬理学教室の石川助教
のオーストラリア便りを
要約したものです。

新名簿予約申込みご案内

おののな同窓会名簿、昭和
四十四年度版を発行して以来、す
でに三千年が過ぎ、その間住所、
地番などの変更が相次ぎ、また昨
年役員の変更などもありましたの
で、この改訂を急いでおりました
が、そのたびやく発行のほこ
びとなりました。

新名簿は会員各位からのご意見
もと入れて改良を加え、一そう
有効にご利用いただけるものと存
じます。つきましては左記のごと
く新名簿のご予約を案内申し上げ
ます。多数のお申込みをお待ちいた
します。

昭和四十七年十月
おののな同窓会本部

記

- 一、発行予定 昭和四十七年十二
月上旬
- 一、予約価格 千二百円(送料を
含む)
- 一、規格 B5版約三〇頁
- 一、予約締切 昭和四十七年十月
末日
- 一、予約方法 折込みの振替用
紙をご利用下さい。千二百
円の振込みをもって予約受
付いたします。なおその他
の送金方法でも結構ですが
その際は名簿予約金と明記
して下さい。お問合せは同
窓会事務局(医学部記念講
堂内)にお願いします。

あとがき

◇今回は総会記事を中心に編集し
ました。毎年のことで、総会の出
席人数は増えたものですが、
来年度は東京で総会という声も
起り、総会議事も編集し甲斐があ
りました。

◇なるべく速報性を心掛けていま
したが、仲々時間がさけず、学全
シーズンをむかえてしまい、心な
らずも遅れてしまいました。深く
反省しております。

◇何時の間に秋たけなわとなっ
てしまいました。本当はそんな季
節感のある記事がほしかったので
すが、間に合いませんでした。ま
だ新しいスタッフでの編集がはじ
まったばかりで、原稿依頼や、原
稿募集にまで手が廻りません。思
いついた時で結構ですから原稿を
お送り下さい。次回発行の原稿締
切は十一月二十日とします。

◇今回の五十一号を編集している
最中に、探血ミス事件の最終公判
が開かれました。現在の医療体制
批判を交えた裁判でありましたが
、分離裁判で、医師(同窓)に
対しては罰金刑が科せられました
すでに記事の枠組みが済んでおり
ましたので、この欄で報告いたし
ます。

印刷所 新柳印刷株式会社
千葉市葛城町九〇
電話 葉〇四七三 四六六一